

【共同研究報告】

基幹共同研究・ファッション教育の比較研究

国際ファッション専門職大学

田中雅一

【概要】

ファッションならびにアパレル産業は、コロナ禍において大きな転機を迎えつつある。その中で業界を支えるファッション教育もまた試行錯誤をしている。本研究の目的は、世界的に有名なファッション教育機関の歴史や実態を明らかにし、本学の教育実践に寄与しようというものである。具体的には、アントワープ王立芸術アカデミー、ニューヨーク州立ファッション工科大学 (FIT)、ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーチンズ・カレッジ、ロンドンのロイヤル・カレッジ・オブ・アート、ヘルシンキのアールト大学などを研究対象に想定している。

【メンバー】

田中雅一（代表）、篠原航平、平野大、三木勘也、藤沢亮太郎、川村由仁夜 (FIT)、高馬京子 (明治大学)。

【活動報告】

本研究協力者の川村由仁夜教授を囲む会合を10月4日にオンラインで実施して、今後の計画を話し合った。また、1月25日には、公開の講演会（ハイブリッド）を開催した。参加者は18名（内学外は2名）であった。講演タイトルは「ファッションデザイン教育」である。

自己紹介の後、FITの教育組織とその内容について、ご自身が学生だった経験も踏まえて詳細な説明がなされた。アート & デザインとビジネス & テクノロジー、教養 (Liberal

Arts) の3学部がある。留年することなくイタリアや韓国で学習を継続できる制度や、英国、チリ、香港、オーストラリアなどの大学との単位互換制度が紹介された。最後に川村教授がよく知っている日本の専門学校やロンドン、ミラノの大学との比較が行われた。講演後、日本のファッション教育の特徴や就職先の比較、ファッション業界の話題の一つである文化盗用などについて、活発に質疑がなされた。FITには教養学部が存在するだけでなく、他の学部でも教養系の科目を4年間とることになっている。これについては、大学で教養系の学問が近年重視されているだけではなく、企業もそのような知識を有している学生を求めているからということであった。カリキュラム編成や留学プログラム、教養科目の位置づけなど、本学の将来を考えるうえで大変貴重な講演であった。

本号掲載論文「ベルギー系ファッションデザイナーの原点とは？ アントワープ王立芸術アカデミーにおけるファッション教育」は本研究の成果である。ここで、執筆者の三木准教授は、アントワープ王立芸術アカデミー・ファッション学科における教育プログラムを、自身の留学体験を踏まえて詳述している。また、アカデミーを卒業している日本人へのインタビューやベルギーに関係するデザイナーの業績に触れることで、多角的にアカデミーの役割を論じている。

ファッションとアートの連環にみるモードの変遷の研究

国際ファッション専門職大学

今村 淳

本研究では、さまざまな問題（サステナビリティ、ジェンダー、多種多様化、戦争など）を抱える現代社会の中で、ファッションとアートに共通する、思考力や想像力がもたらす表現性を通して人間のより良い生き方を探究している。具体的には、現代アートとは何かを定義づける、アーティスト自身による（人間の生のかたちの）声明といえる「ステイトメント」に注目し、その発端となった、20世紀の芸術概念を取り上げながら、ファッションの定義を、視覚美ではなく概念としての「モード」と捉えることによって、ファッションとアートの連環を明らかにする。

2022年度は、おもに本共同研究者である永澤陽一教授が出品した「奇想のモード——装うことへの狂気、またはシュルレアリスム」（東京都庭園美術館、2022年1月15日～4月10日）に関連する調査研究を永澤教授の協力を受けながら行った。同展はまさしく本研究を代弁するコンテンツを有しており、副題が示す通り、20世紀アートとファッションを狂気というキーワードで連環させている。20世紀という戦争の世紀の中で、実は、狂気とは現実の世界のことであり、一見狂気性を帯びたシュルレアリスム（超現実）の表現とは、真の人間性の表現であったと考えられる。

●調査報告

1) 永澤教授の助言により、6月に「奇想のモード」展に展示されたファッションデザイナー、トキオクマガイの作品展「熊谷登喜夫——軽やかに時を超えた靴デザイナー」（KCI

ギャラリー、2022年1月31日～6月24日）を訪問した。永澤教授がアシスタントを務めた80年代に発表された靴という既成概念を超越する彼の作品群は、高度消費社会が生み出したポストモダンの産物といえる。製品で満たされた中で、つぎに人間が求めるものは、他とは違うオリジナリティーであり、さまざまなライフスタイルや価値観に合わせた彼の作品はまさしく、自身による（人間の生のかたちの）「ステイトメント」と捉えられるだろう。

2) 8月に、本共同研究者である浜田久仁雄氏が所属する神戸ファッション美術館の訪問および浜田氏へのインタビューを行った。本研究内容に関連する、浜田氏が過去にいくつか企画された展覧会資料も入手できた。また浜田氏企画による、神戸ファッション都市宣言50周年記念特別展「祝祭の景色～世界の結婚式～」(2022年11月19日～2023年1月29日)にあわせて調査訪問を行う。

●発表報告

東京藝術大学美術教育研究会の大会（オンライン、2022年11月12日）にて、口頭発表「シュルレアリスムとファッション」を行った。シュルレアリスムに強く影響を受けたファッションデザイナー、エルサ・スカパレリを取り上げて、彼女の既成概念を覆す表現の実践とシュルレアリスムとの関係性について述べた。シュルレアリスムによる多角（覚）的視点および想像（創造）力の必要性への再認識は、ファッション教育および美術教育においても有効であると考えている。